



### 大階段

入口から入ってすぐの大階段。交流スペースとして催し事やイベントなども行えるスペースとする。大階段は中央と端で用途を変える。中央は座ることができ、催し事などで話を聞ける空間として使い、端は一般的に階段として利用する。



### 会議室

会議室はガラス張りとし、室内の空間を広く感じさせる。また、ブラインドを使い個室空間にもできる。



### ペDESTリアンデッキ

植林が植えてあるスペースは直線状に植えず、左右に分ける。このように計画する事で視線が単調にならず、いつも違った風景へと感じさせる。



### コンベンションセンターへのアプローチ

3階の展示ブースからのアプローチとなり、目を引く展示物があることで、そのまま店舗に誘導する。ここは多くの人が行き来することが見込まれる。

### 卸町（昼と夜）

卸町が大きく変化するのは夜である。コンベンションセンターは格子状の木材から抜ける影が幻想的となる。ペDESTリアンデッキは手すりやワイヤーの影もその役割を担っている。ペDESTリアンデッキでは手すりの防護柵としてワイヤーを利用し、軽さを出す。デッキ上に植林の植えることで、デッキ自体の固さを和らげる効果もある。

### 建物の機能

コンベンションセンターの格子状の壁

- 1階部分 300×300mm角
- 2階部分 500×500mm角
- 3階部分 800×800mm角

階の低い部分から格子状の間隔を狭め、高くなるに連れて間隔を広げていく。3階の格子状の間隔が広い分、昼は自然の採光を取り入れる。夜は室内から室外に光が漏れ、幻想的な空間となる。また、外から見える1階と3階の室内空間の見え方を利用し、建物に人を呼び込む効果も期待される。

